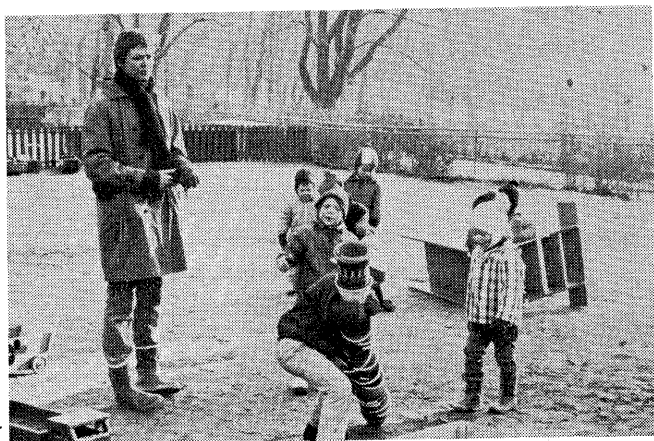


北欧保育短信(三)

飯田 泰造

この前ストックホルムの先生たちのことを書きましたが、幼稚園や保育園の他にもいろいろ子どものための施設があつて、おとなたちができるだけ子どもを見守り育てようとしている努力がうかがえました。プレイベン (Playpens) の働きもその一つでしょう。あちらこちらにある公園で、その一角を区切って、幼い子どもたちのために開放し、短時間の保育をしてくれるのがプレイベンです。

日本にも巡回保育とか、青空保育がありますが、ここは毎日9時半から12時半まで3時間ずつ見てくれるものです。もちろん費用は要りません。特殊な子どもでなければ、誰でも親が連れて来て記名の上、保育してもらえます。二人の指導者が、二十人ぐらいの幼児を見ていました。大へんおもしろいと思つたのはレバンデベルクスタット (Levandevskstat) と呼ぶ施設を訪ねた時のことです。それはちょうど土曜日の午



ストックホルムのプレイベン

公園の一角を解放され、短時間の保育を受ける子どもたち。だれでも参加できる。

後でしたが、ここでは半日を若者や年よりやおかあさんやおとうさんも子どもたちといっしょに楽しむために集まっています。何が始まるのかと思っていると、おとなも子どももめいめいカバンの中から思い思いに楽器……といっても、くふうして作って来たり、探し集めたものばかりです。あき罐に皮をはって作ったドラム、手製の妙な音を出す笛、お碗を合わせたようなカスタネット、ただのそろばんもあります。おもしろいことに同じものが無かったことです。中にはドラム罐を二つにたち切った大がかりのものを自動車で運び込んだ者もあつたり、鎖を金具にこすり合わせるなどというのもありました。

総勢、七、八十人ぐら이었다っでしょう。最初に一人ずつがリズムカルにそのめいめいの楽器をならしたり、たたいたり、吹いたりします。全部がすむまでにはずいぶん時間がかかりましたが一人ずつが、さて

次はどんな音がするだろうか？ と興味があるの、おとなも子どももじっと耳を澄ましていました。おもしろい音やリズムがすると笑いがおこり、拍手が湧きました。その後で知らぬ間に隠しマイクで録音されたテープをいっしょに聞いてまた大喜び。今度はそれを一斉にならしたが、何時の間にか、リズムカルな一大交響曲になっていました。あたかも「裏町の交響楽」といったところでは。

ほんとうに、ここにも音楽があると思わせられました。そして、これは子どもの創造性の育成にも大いにプラスするものではないでしょうか。

スウェーデンの家具デザイナーの第一人者であり、世界的に有名な、かのカール・マルムステン (Carl-Malmsten) も子どもたち、また保育施設のために、美しい、保育用家具をデザインしていますし、また、



レバンデベルクスタットの活動
(おとなも子どももくふうした
楽器を楽しんでいる)

マルメー (Malmo) 市のように、特に学校建築 (保育園や幼稚園のもの) について、意欲的にとりこんで、研究し、改良しているところもありました。

前記のレバンデベルクスタットでは、別の日に若い人たちの創造的教育が行なわれていますが、そこでもう一つ大切な活動を見ました。

それは、「目の見えない子どもたちに、美しい絵を贈ろう」というテーマで造形をしていくことです。触覚の芸術といえ、彫刻もその一つといってもよいでしょうが、これは、いくつかの大箱に集められた各種の素材 (紙、きれ、皮、毛皮、ビニール、レース、ネット、紐、毛糸など) の肌ざわりを触覚しながら造形し、何とか、目の見えない子どもたちに、その美しさを感じとらせてやろうという有効な作業でした。先ず、布を張った板の上に、めいめい、目を

つむって、その材質の肌ざわりを感触しながらカラーシユ (貼り絵) をしていました。もちろんまだ実験の段階だということでしたが、造形要素の中にしめる触覚の位置はきわめて大切です。それなのに、あまりとり上げられないこの種の試みをここで教えられたことでした。

これまでに私は、この国の大都市ばかりでなく、町から離れた、小さな村などの、保育施設や学校を見せてもらいましたが、どんな村落へ行っても、都会と変わりのない設備や、素材を持ち、一樣に自由な保育をしているのを見て、さすがは社会保障の行きわたった国だと思ったことでしたが、それは水準以上もなく、水準以下もないというものです。日本の幼児教育施設が非常に格差があり、進んだ保育をしている園では、次をどうするかの問題と、遅れている園をどう引き上げていくかの問題を二つか



レバンデベルクスタットの活動
(触覚しながらカラーシユ
をしている)

かえている現状とは、だいぶ異なっていました。

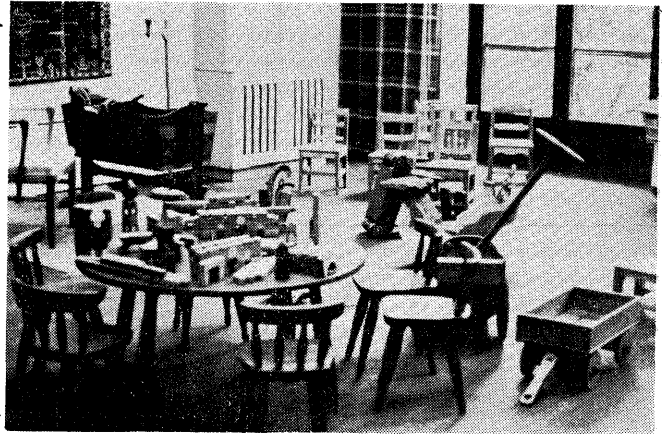
工業化の進んでいる大都市では、当然、保育園の問題が浮かんで来ること……したがって、保育者養成も、日本流に言えば保育者の養成が急務のようです。

養成学校は十九歳から入れるのですが、それまでに何らかの実地の経験を持っていることが要求され、大へんどの保育学校も入学が困難のようです。このため年齢にはずいぶん幅があつて、中年の女性や主婦も多く、中には子どもを連れて学校へ来ている人も見受けました。

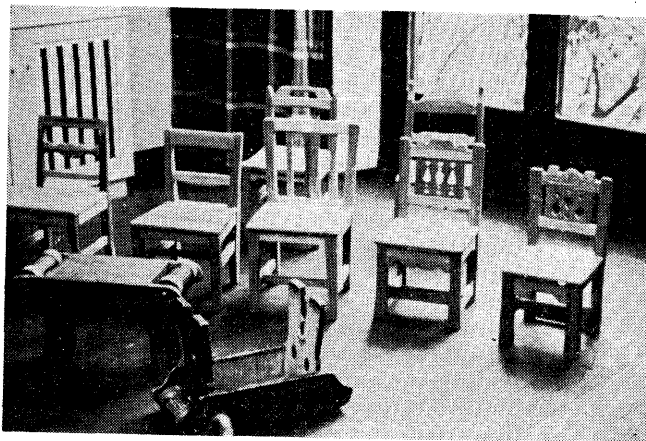
希望者を、どこの保育学校もできるだけ受け容れようとはしていますが、それでもまだまだ必要が満たされていません。

興味あることとして、今年 は男子の入学者、つまり保育希望者が全スウェーデンに五名あつたことは前にも書きました。

一九六九年十一月 ストックホルムにて



カール・マルムステンの保育家具
カール・マルムステンはスウェーデンの家具デザイナーの第一人者である。



カール・マルムステンの保育家具
子どもたちのために美しくデザインしてある。